

カレッジ通信

編集・発行
東京建築カレッジ

授業見学
大歓迎！
TEL 03
(5950)
1771

軸組みの小屋をみんなで作る 「実習棟」実習に向けた準備学習



建築とは何か、体感する授業。
写真は昨年の1年生（25期生）による軸組み
の小屋、完成後の記念写真

1年生の授業から

東京建築カレッジの実技実習系授業の最大の特徴は、二階建ての木造住宅の躯体（くたい）を手刻みで建てる「実習棟」実習ですが、その準備学習として、1間（約1・8m）×1間半の小屋をつくりまします（左上写真）。柱と梁（はり）で構造をつくる軸組み構造の基本を身体を動かしながら習得します。

の全体を体感させる狙いがあります。

●板図（手板）から

東京建築カレッジの実技実習系授業は、1年次の前半に手道具の使い方、墨付けと刻みの基本を学んだ後、後半から建築実習に入ります。8月21日からは軸組み構法による小屋づくりの授業が始まりました。新規入職の未経験者が研修生の大半なので、これまでに学んだ知識や技術を使って建築

この授業の目的は「図、軸組織を読み取り、頭の中に建築物を立体的に構成できるようになる事」。最初に取り組ませるのは図面の理解です。大工が現場で確認するための図面Ⅱ板図（手板）を作成、次いで尺杖（しゃくづえ）や矩計（かなば

納品された木材を確認し、木の特性を学び、適材適所を見極める。



末、木表・木裏、背・腹などを見極めるのがポイントです。現在の住宅新築現場では、どこにどの材料を使うのか、あらかじめ指定したフレカット材の組み立てが作業の中心になりました。木の使い方や学ぶ機会が少なくなると、様々な場面で正しい見極めができなくなる可能性があります。これを防ぐための

●墨付けは慎重に

墨付けは間違えてしまうと後工程に影響するので慎重に作業を進めます。屋根勾配や峠、束と垂木の長さの関係も学びます。そして、建方へ。屋根工事は垂木まで行い、敷居・鴨居の「ひかり付け」を教わるころまで進行する予定です。授業はすべて江東実習場で行います。見学を歓迎します。

実技実習系授業の流れ

1年次

（前半）

- ・安全学習
- ・自分の道具箱をつくる。
- ・手道具の扱い方
- ・刃物を砥ぐ。
- ・図面を理解し、材料に墨を付ける。
- ・自分の手で刻んで継手（つぎて）や仕口（しぐち）をつくる。
- ・「カレッジフレーム」

（後半）

- ・柱と梁（はり）で構造をつくる（軸組み構法で小屋づくり）
- ・1期上の先輩がつくった「実習棟」を解体する。
- ・「実習棟」実習（板図の作成からスタート）

●木の使い方

材料が届いたら木の使い方や学習します。元

ジャーナリスト志葉玲さんの特別授業 アフガン情勢、気候危機を知る

東京建築カレッジは、広く世界と人間を見つめて自主的に行動できる建築従事者の育成をめざしています。この観点から教養科目を充実させています。

8月27日の「建築社会論」では、ジャーナリストの志葉玲さんを講師に、アフガニスタンの最新情勢や深刻な気候危機について学びました。世界中で起きている「異常気象」は建築の仕事にも大きな影響を与えています。お客さんからの相談

や質問でも増え、最新の動きはつかんでおく必要があります。



江東実習場で初のオープンキャンパス

8月10日



工業高校建築科3年生など参加

本校は、これまで授業日以外に開催する学校説明会を池袋校舎だけで行っていました。授業日以外の開催のため学校の様子を伝えるべく、カレッジ教育の一番の特徴である「実習棟」を見てもらえないという弱点がありました。このため、学校説明は授業見学

時の説明の方が主になりがちでした。そこで、今年から夏休み時期に高校生を主対象とする「オープンキャンパス 学校説明会」を開くことにしました。内容の充実を図るため、学科系、実技実習系、各1人、講師・指導員の先生（卒業生）にも参加してもらい、8月10日（火）に開催しました。

工業高校建築科の先生方への事前告知も奏功し、5校・高校生12人（都立墨田工業高校全日制、都立墨田工業高校定時制、都立田無工業高校、神奈川県立岡工業高校、正則学園高校）、保護者3人、引率教員2人が参加しました。参加者のうち4人は8月25日の第1回入学選考会を受験しました。感染予防のため、2部制にするなど工夫して開催しました。



教務運営委員で実技実習の指導員を務める山田幸延さん（第5期生）の解説を熱心に聞く高校生たち（江東実習場2階教室）

2年生の授業から

規矩(きく)術演習「四方転び踏み台」始まる

四方転(ころ)び踏み台は、4つの脚が前後左右に同じ勾配で傾斜が付き、踏み台の中心へと倒れた状態の構造物です。日本の大工技術理論である規矩術の伝統的な演習課題で、東京建築カレッジでは2年次の秋に全員が挑戦します。今年も8月28日、現寸図を描くところから授業が始まりました。9月4日から墨付けです。



1mの直定規と大きな三角定規、サンガネを使って模造紙に展開図を書き、構造を理解します。

◆事業主研修会

東京建築カレッジ 無料職業紹介所（所）

ミニニュース

長井小林謙一(二)学校長は8月31日、「けんせつプラザ東京」で登録事業所を対象に、募集、採用から育成・定着までの実務と経験を学ぶ研修会を開きました。新人を採用できていても定着が難しい現実を各社の経験報告で共有し、どうすれば育成がうまくいくのか、カレッジとどう連携するのか、活発に意見交流しました。

◆公開講座

2年ぶりの東京建築カレッジ公開講座を11月6日（土）オンライン開催することが決まりました。テーマは「なぜ手道具、手刻みから学ぶのか」。建築エゴノミストの森山高至さんが橋本英夫先生に質問します。第二部では卒業生4人が討論に参加します。

第27期生(2022年4月入学生)募集 第2回入学選考会は9月29日(水)

応募締め切りは9月24日(金)

第3回入学選考会は10月27日(水)

応募締め切りは10月22日(金)



入学願書など応募書類の取り寄せはお早めに！本校の就職支援は応募後に始まります。本校入学を保障する就職あっせんをご希望の方は早期に応募をお願いします。

東京建築カレッジ 学校紹介はこちら⇒



お問い合わせ ☎03-5950-1771 東京土建技術研修センター内、東京建築カレッジ